

“環境過敏症”ってご存じですか？

近年、柔軟剤などの香りで体調を崩す方が増えてきています。これは、環境過敏症(シックハウス症候群・化学物質過敏症・電磁過敏症など)と呼ばれる健康障害で、アレルギー疾患(花粉症,喘息など)と密接に関係しており、現代人なら誰もが発症する可能性があります。特にコロナ禍では消毒剤の噴霧やオンライン作業などの機会が増えるため患者の急増が危惧されています。そこで、約30年間、環境過敏症の疫学研究に従事されている北條祥子先生を講師にお迎えして、講演会を開催しお話をうかがいます。(参加費は無料です)

【日時】 令和4年8月27日(土)

13:30~15:30 ※会場受付 13:00~

【講師】 北條祥子先生

先生は中川村(横前)生まれ。
6歳まで本村で過ごし、伊那北高校卒業生です。
東北大学で医学博士、歯学博士を取得
ご専門は疫学,環境医学。
現在は尚絅学院大学名誉教授。
歴任された役職、研究経歴などは裏面に記載。



【参加方法】

① オンライン (ZOOM) 参加 事前登録制 100名 (先着順)

○事前参加申込み方法

下記URLまたは二次元コードから事前参加申込みを受け付けます。オンライン参加申込みの方には、登録いただきましたメールアドレスに当日参加用のご案内メールを送信いたします。

<https://logoform.jp/f/MOLSk>

○視聴方法

パソコン、タブレット、スマートフォンから視聴できます。
当日、13:15より接続可能です。

※新型コロナウイルス感染状況によっては開催方法が変更となる場合があります。



【問い合わせ】 中川村役場保健福祉課 電話：0265-88-3001

E-mail：health@vill.nagano-nakagawa.lg.jp

みんなで環境過敏症を考えてみませんか

中川村では昨年、香りの害に悩む中学生のいることがわかり、学校内での議論が進みました。使っている人にとっては「よい香り」でも、周りの人には被害を与えている「香害」。「過敏症」という言葉は症状が出た人の個人的な体質のように感じさせますが、これは「日用品」によって人為的に引き起こされた「公害」であると言われはじめています。

花粉症は今では誰もが認めるアレルギー症状ですが、「香害」は同じアレルギー症状でも、原因が自然界から発生したのではなく、社会が生み出したものであるので「日用品公害」と指摘されるようになりました。

近年、環境過敏症と小児の登校障害、自閉症、多動症、学習障害との関係が指摘され始めています。北條先生の調査では、日本の一般人の中には「化学物質過敏症の可能性が高い人」が約6%、「電磁過敏症の可能性が高い人」が3~5%、「双方の過敏症を合併している可能性が高い人」は約1%存在すると報告されています。

先生は約30年間、本症の疫学研究に従事してこられた研究者の立場から、「環境過敏症は現代人なら誰が発症してもおかしくない健康障害である。早期に気が付き、個人レベルでできる環境改善・生活改善をしながら、社会全体で子どもの健康が保全できるような持続可能な環境づくりをするべき」と、考えておられます。

ご講演を契機に、みんなで環境過敏症を考え、地域全体で「相手のことを思いやる」環境づくりを進めてみませんか。

北條先生の主な経歴

- 1967 東北大学医学部薬学科卒業
- 1967-1968 東京医科歯科大学医療機材研究所研究員
- 1968-1993 東北大学歯学部口腔生化学教室にて研究教育に従事
- 1985-1986 米国国立衛生研究所（NIH）に留学
- 1993-2011 尚絅女学院短期大学・尚絅学院大学教授
- 1995-2005 環境省「農薬環境懇談会専門委員会」委員
- 2000-2003 宮城県温暖化防止活動推進センター（ストップ温暖化みやぎ）の初代センター長
- 2000-2015 厚生労働科学研究班「微量化学物質によるシックハウス症候群の病態解明、診断治療法対策研究」の座長研究協力者として研究
- 2000-2010 シックハウス対策検討会（座長；日本建築学会長吉野博）の研究員
- 2003-2010 東京大学大学院医学系研究科心療内科客員研究員
- 2011-2021 早稲田大学応用脳科学研究所招聘研究員
- 2011-現在 尚絅学院大学名誉教授
- 2011-現在 「生活環境と健康研究会」を設立し代表を務める
- 2013-現在 東北大学大学院歯学研究科研究員
- 2017-現在 室内環境学会環境過敏症分科会代表
- 2019-現在 日本臨床環境医学会環境過敏症分科会代表